ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	由雄　正恒

主な担当科目	コンピュータ音楽概論,ミュージックセオリー（初級）,聴音・視唱ソルフェージュ①,電子音響制作特別演習,博士研究指導,実技個人レッスン[作曲②,創作実技①,作曲・エレクトロニクス実技①②③④]
シラバス	次ページをご参照ください

2022年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	作曲、電子音響音楽、コンピュータ音楽創作のための指導法の研究（継続） 音楽理論、ソルフェージュの指導法研究（継続）
2022年の教育に関する自己評価	創作に関わる理論と技法の研究を行い、自作品にて実践し、教育に活用した コンピュータ音楽のための授業教材を研究して実践した 聴音ソルフェージュのための授業用課題を研究し実践した

2022年のFD活動に関する自己評価	テーマに基づいた研修を受けることで、教育、指導で他の授業との連携、学修成果、ICT活用、学生が抱える現状と課題など意識することができた
授業改善のために 取り入れた研修内容	学修成果、ICT活用を意識して授業、レッスンを進行できるよう実践した

科目名－クラス名

コンピュータ音楽概論　B

曜日時限

水 2時限

担当教員

由雄　正恒

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	2～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	0	50	100

教育到達目標と概要

コンピュータ音楽について基本となるDTM（コンピュータを使用した音楽制作）に必要な知識と技法について修得する。DTMにおける楽譜の浄書技術、シンセサイジング、サンプリング、MIDI・オーディオデータの編集、プラグイン・エフェクト、ミキシングについて、用語の理解と基本的な操作法について学修する。

学修成果

コンピュータとDTMについて理解し、コンピュータを使用した基本的な音楽制作の技法を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　コンピュータ音楽について理解を深める

第2回　コンピュータ（マッキントッシュ）の基本操作とDTMに必要な機器のセットアップについて理解を深める

第3回　基本となる楽譜制作ソフト（フィナーレ）の音符の入力技法

第4回　応用的な楽譜制作ソフト（フィナーレ）の音符の入力

第5回　複雑または特殊な音符の入力技法

第6回　基本となる楽譜制作ソフト（フィナーレ）の音符の編集技法

第7回　応用的な楽譜制作ソフト（フィナーレ）の音符の編集技法

第8回　楽譜制作ソフト（フィナーレ）のコードネームについて

第9回　楽譜制作ソフト（フィナーレ）のドラム譜について

第10回　楽譜制作ソフト（フィナーレ）のタブ譜について

第11回　楽譜浄書技法-入力と編集

第12回　楽譜浄書技法-楽譜に用いられる記号の入力と編集

第13回　楽譜浄書技法-楽譜に用いられる図形、文字入力

第14回　楽譜浄書技法-楽譜のレイアウト

第15回　総括。finaleを用いた楽譜浄書データの提出（授業内小テスト）

第16回　DAWソフト（Logic）の概要

第17回　ソフトウェアシンセサイザーの概要

第18回　MIDIについての概要と仕様について

第19回　MIDIによる演奏データの概要

第20回　より高度な演奏データについて

第21回　MIDIデータ編集の概要

第22回　MIDIデータ編集の応用

第23回　プラグイン・エフェクターの概要と基本

第24回　ミキシングの概要と基本

第25回　DTM制作技法の概要と基本

第26回　DTM制作技法-データ入力

第27回　DTM制作技法-データ編集

第28回　DTM制作技法-ミキシングについて-音量と定位

第29回　DTM制作技法-様々なプラグイン・エフェクターを使用したミキシング

第30回　DTM制作技法-マスタリング

履修上の注意

人数制限あり。欠席や遅刻は内容を修得していく上で妨げとなるので注意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

C411、C418の教室貸し出し時間を利用して、各授業回で学修した内容について復習（30分）、予習（30分）の準備学修を行うこと。小テストおよび後期末の課題提出は各授業回に進捗を確認しフィードバックを行う。

教科書・参考書

必要に応じて、プリントの配付や指示をその都度与える。

科目名－クラス名

コンピュータ音楽概論　ピアノB

曜日時限

水 2時限

担当教員

由雄　正恒

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	1～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	0	50	100

教育到達目標と概要

コンピュータ音楽について基本となるDTM（コンピュータを使用した音楽制作）に必要な知識と技法について修得する。DTMにおける楽譜の浄書技術、シンセサイジング、サンプリング、MIDI・オーディオデータの編集、プラグイン・エフェクト、ミキシングについて、用語の理解と基本的な操作法について学修する。

学修成果

コンピュータとDTMについて理解し、コンピュータを使用した基本的な音楽制作の技法を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　コンピュータ音楽について理解を深める

第2回　コンピュータ（マッキントッシュ）の基本操作とDTMに必要な機器のセットアップについて理解を深める

第3回　基本となる楽譜制作ソフト（フィナーレ）の音符の入力技法

第4回　応用的な楽譜制作ソフト（フィナーレ）の音符の入力

第5回　複雑または特殊な音符の入力技法

第6回　基本となる楽譜制作ソフト（フィナーレ）の音符の編集技法

第7回　応用的な楽譜制作ソフト（フィナーレ）の音符の編集技法

第8回　楽譜制作ソフト（フィナーレ）のコードネームについて

第9回　楽譜制作ソフト（フィナーレ）のドラム譜について

第10回　楽譜制作ソフト（フィナーレ）のタブ譜について

第11回　楽譜浄書技法-入力と編集

第12回　楽譜浄書技法-楽譜に用いられる記号の入力と編集

第13回　楽譜浄書技法-楽譜に用いられる図形、文字入力

第14回　楽譜浄書技法-楽譜のレイアウト

第15回　総括。finaleを用いた楽譜浄書データの提出（授業内小テスト）

第16回　DAWソフト（Logic）の概要

第17回　ソフトウェアシンセサイザーの概要

第18回　MIDIについての概要と仕様について

第19回　MIDIによる演奏データの概要

第20回　より高度な演奏データについて

第21回　MIDIデータ編集の概要

第22回　MIDIデータ編集の応用

第23回　プラグイン・エフェクターの概要と基本

第24回　ミキシングの概要と基本

第25回　DTM制作技法の概要と基本

第26回　DTM制作技法-データ入力

第27回　DTM制作技法-データ編集

第28回　DTM制作技法-ミキシングについて-音量と定位

第29回　DTM制作技法-様々なプラグイン・エフェクターを使用したミキシング

第30回　DTM制作技法-マスタリング

履修上の注意

人数制限あり。欠席や遅刻は内容を修得していく上で妨げとなるので注意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

C411、C418の教室貸し出し時間を利用して、各授業回で学修した内容について復習（30分）、予習（30分）の準備学修を行うこと。小テストおよび後期末の課題提出は各授業回に進捗を確認しフィードバックを行う。

教科書・参考書

必要に応じて、プリントの配付や指示をその都度与える。

科目名－クラス名

コンピュータ音楽概論　音教・音社B

曜日時限

水 2時限

担当教員

由雄　正恒

授業形態	開講年次	開講期	単位数
講義	2～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	50	0	0	50	100

教育到達目標と概要

コンピュータ音楽について基本となるDTM（コンピュータを使用した音楽制作）に必要な知識と技法について修得する。DTMにおける楽譜の浄書技術、シンセサイジング、サンプリング、MIDI・オーディオデータの編集、プラグイン・エフェクト、ミキシングについて、用語の理解と基本的な操作法について学修する。

学修成果

コンピュータとDTMについて理解し、コンピュータを使用した基本的な音楽制作の技法を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　コンピュータ音楽について理解を深める

第2回　コンピュータ（マッキントッシュ）の基本操作とDTMに必要な機器のセットアップについて理解を深める

第3回　基本となる楽譜制作ソフト（フィナーレ）の音符の入力技法

第4回　応用的な楽譜制作ソフト（フィナーレ）の音符の入力

第5回　複雑または特殊な音符の入力技法

第6回　基本となる楽譜制作ソフト（フィナーレ）の音符の編集技法

第7回　応用的な楽譜制作ソフト（フィナーレ）の音符の編集技法

第8回　楽譜制作ソフト（フィナーレ）のコードネームについて

第9回　楽譜制作ソフト（フィナーレ）のドラム譜について

第10回　楽譜制作ソフト（フィナーレ）のタブ譜について

第11回　楽譜浄書技法-入力と編集

第12回　楽譜浄書技法-楽譜に用いられる記号の入力と編集

第13回　楽譜浄書技法-楽譜に用いられる図形、文字入力

第14回　楽譜浄書技法-楽譜のレイアウト

第15回　総括。finaleを用いた楽譜浄書データの提出（授業内小テスト）

第16回　DAWソフト（Logic）の概要

第17回　ソフトウェアシンセサイザーの概要

第18回　MIDIについての概要と仕様について

第19回　MIDIによる演奏データの概要

第20回　より高度な演奏データについて

第21回　MIDIデータ編集の概要

第22回　MIDIデータ編集の応用

第23回　プラグイン・エフェクターの概要と基本

第24回　ミキシングの概要と基本

第25回　DTM制作技法の概要と基本

第26回　DTM制作技法-データ入力

第27回　DTM制作技法-データ編集

第28回　DTM制作技法-ミキシングについて-音量と定位

第29回　DTM制作技法-様々なプラグイン・エフェクターを使用したミキシング

第30回　DTM制作技法-マスタリング

履修上の注意

人数制限あり。欠席や遅刻は内容を修得していく上で妨げとなるので注意すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

C411、C418の教室貸し出し時間を利用して、各授業回で学修した内容について復習（30分）、予習（30分）の準備学修を行うこと。小テストおよび後期末の課題提出は各授業回に進捗を確認しフィードバックを行う。

教科書・参考書

必要に応じて、プリントの配付や指示をその都度与える。

科目名－クラス名

ミュージックセオリー（初級）

曜日時限

火 3時限

担当教員

由雄　正恒

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	後期	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

作曲・編曲、楽曲分析に必要な和声学を中心とした理論と技術（専門的能力として基礎力、技術力、専門知識、学士力として論理的思考力）を修得することを目的とする。初級、中級、上級のグレード別に編成されていて、履修者は各々のレベルに沿って学修する。

学修成果

和声学をテーマとし、本科目では、主要3和音の基本形・転回形、Ⅴ7の和音の基本形・転回形、Ⅴ9の和音の基本形・転回形、D諸和音、Ⅱ7の和音を修得する。

授業展開と内容

第1回　予備知識および３和音基本形の配置の概説

第2回　予備知識および３和音基本形の配置の技法について

第3回　３和音基本形の連結の概説

第4回　３和音基本形の連結の技法について（基礎）

第5回　３和音基本形の連結の技法について（応用）

第6回　各調による和声の機能、カデンツ、終止の技法について（基礎）

第7回　各調による和声の機能、カデンツ、終止の技法について（応用）

第8回　各調による和声の機能、カデンツ、終止の技法について　（総括）

第9回　３和音第１転回形の概説

第10回　３和音第１転回形の技法について（基礎）

第11回　３和音第１転回形の技法について（応用）

第12回　３和音第2転回形の概説

第13回　３和音第2転回形の技法について（基礎）

第14回　３和音第2転回形の技法について（応用）

第15回　前期の振り返り・まとめ

第16回　Ⅴ7の和音の概説

第17回　Ⅴ7の和音の技法について（基礎）

第18回　Ⅴ7の和音の技法について（応用）

第19回　Ⅴ7の和音の技法について（総括）

第20回　Ⅴ9の和音の概説

第21回　Ⅴ9の和音の技法について（基礎）

第22回　Ⅴ9の和音の技法について（応用）

第23回　Ⅴ9の和音の技法について（総括）

第24回　D諸和音の総括

第25回　Ⅱ7の和音の概説

第26回　Ⅱ7の和音の技法について（基礎）

第27回　Ⅱ7の和音の技法について（応用）

第28回　Ⅱ7の和音の技法について（総括）

第29回　総合練習

第30回　後期の振り返り・まとめ

履修上の注意

学修レベルによりクラス分けを行う。尚、この授業は学生の進捗状況に応じて授業を進めていく。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週の授業時に指示されるので、授業には必ず与えられた課題を実施（60分程度）してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各授業回で行う。

教科書・参考書

教科書（購入必要）：「和声 ― 理論と実習 ―　Ⅰ巻・Ⅱ巻」、 島岡　譲（執筆責任）他、音楽之友社

科目名－クラス名

ミュージックセオリー（初級）

曜日時限

火 3時限

担当教員

由雄　正恒

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

作曲・編曲、楽曲分析に必要な和声学を中心とした理論と技術（専門的能力として基礎力、技術力、専門知識、学士力として論理的思考力）を修得することを目的とする。初級、中級、上級のグレード別に編成されていて、履修者は各々のレベルに沿って学修する。

学修成果

和声学をテーマとし、本科目では、主要3和音の基本形・転回形、Ⅴ7の和音の基本形・転回形、Ⅴ9の和音の基本形・転回形、D諸和音、Ⅱ7の和音を修得する。

授業展開と内容

第1回　予備知識および３和音基本形の配置の概説

第2回　予備知識および３和音基本形の配置の技法について

第3回　３和音基本形の連結の概説

第4回　３和音基本形の連結の技法について（基礎）

第5回　３和音基本形の連結の技法について（応用）

第6回　各調による和声の機能、カデンツ、終止の技法について（基礎）

第7回　各調による和声の機能、カデンツ、終止の技法について（応用）

第8回　各調による和声の機能、カデンツ、終止の技法について　（総括）

第9回　３和音第１転回形の概説

第10回　３和音第１転回形の技法について（基礎）

第11回　３和音第１転回形の技法について（応用）

第12回　３和音第2転回形の概説

第13回　３和音第2転回形の技法について（基礎）

第14回　３和音第2転回形の技法について（応用）

第15回　前期の振り返り・まとめ

第16回　Ⅴ7の和音の概説

第17回　Ⅴ7の和音の技法について（基礎）

第18回　Ⅴ7の和音の技法について（応用）

第19回　Ⅴ7の和音の技法について（総括）

第20回　Ⅴ9の和音の概説

第21回　Ⅴ9の和音の技法について（基礎）

第22回　Ⅴ9の和音の技法について（応用）

第23回　Ⅴ9の和音の技法について（総括）

第24回　D諸和音の総括

第25回　Ⅱ7の和音の概説

第26回　Ⅱ7の和音の技法について（基礎）

第27回　Ⅱ7の和音の技法について（応用）

第28回　Ⅱ7の和音の技法について（総括）

第29回　総合練習

第30回　後期の振り返り・まとめ

履修上の注意

学修レベルによりクラス分けを行う。尚、この授業は学生の進捗状況に応じて授業を進めていく。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週の授業時に指示されるので、授業には必ず与えられた課題を実施（60分程度）してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各授業回で行う。

教科書・参考書

教科書（購入必要）：「和声 ― 理論と実習 ―　Ⅰ巻・Ⅱ巻」、 島岡　譲（執筆責任）他、音楽之友社

科目名－クラス名

ミュージックセオリー（初級）

曜日時限

火 3時限

担当教員

由雄　正恒

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

作曲・編曲、楽曲分析に必要な和声学を中心とした理論と技術（専門的能力として基礎力、技術力、専門知識、学士力として論理的思考力）を修得することを目的とする。初級、中級、上級のグレード別に編成されていて、履修者は各々のレベルに沿って学修する。

学修成果

和声学をテーマとし、本科目では、主要3和音の基本形・転回形、Ⅴ7の和音の基本形・転回形、Ⅴ9の和音の基本形・転回形、D諸和音、Ⅱ7の和音を修得する。

授業展開と内容

第1回　予備知識および３和音基本形の配置の概説

第2回　予備知識および３和音基本形の配置の技法について

第3回　３和音基本形の連結の概説

第4回　３和音基本形の連結の技法について（基礎）

第5回　３和音基本形の連結の技法について（応用）

第6回　各調による和声の機能、カデンツ、終止の技法について（基礎）

第7回　各調による和声の機能、カデンツ、終止の技法について（応用）

第8回　各調による和声の機能、カデンツ、終止の技法について　（総括）

第9回　３和音第１転回形の概説

第10回　３和音第１転回形の技法について（基礎）

第11回　３和音第１転回形の技法について（応用）

第12回　３和音第2転回形の概説

第13回　３和音第2転回形の技法について（基礎）

第14回　３和音第2転回形の技法について（応用）

第15回　前期の振り返り・まとめ

第16回　Ⅴ7の和音の概説

第17回　Ⅴ7の和音の技法について（基礎）

第18回　Ⅴ7の和音の技法について（応用）

第19回　Ⅴ7の和音の技法について（総括）

第20回　Ⅴ9の和音の概説

第21回　Ⅴ9の和音の技法について（基礎）

第22回　Ⅴ9の和音の技法について（応用）

第23回　Ⅴ9の和音の技法について（総括）

第24回　D諸和音の総括

第25回　Ⅱ7の和音の概説

第26回　Ⅱ7の和音の技法について（基礎）

第27回　Ⅱ7の和音の技法について（応用）

第28回　Ⅱ7の和音の技法について（総括）

第29回　総合練習

第30回　後期の振り返り・まとめ

履修上の注意

学修レベルによりクラス分けを行う。尚、この授業は学生の進捗状況に応じて授業を進めていく。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週の授業時に指示されるので、授業には必ず与えられた課題を実施（60分程度）してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各授業回で行う。

教科書・参考書

教科書（購入必要）：「和声 ― 理論と実習 ―　Ⅰ巻・Ⅱ巻」、 島岡　譲（執筆責任）他、音楽之友社

科目名－クラス名

聴音・視唱ソルフェージュ①　C

曜日時限

木 1時限

担当教員

由雄　正恒

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音と視唱の訓練により、ソルフェージュ能力を養成する。

学修成果

この授業では、聴音（書き取り）と視唱（歌うことを通して（1）音程、リズム、音階などの感覚、（2）読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成）をテーマとし、リズム、単旋律、2声、4声体和声の書き取り及び視唱の初級程度の能力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回	聴音と視唱の学修方法および授業ガイダンス
第2回	3/4拍子のリズム聴音、および二度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.１を中心として行う
第3回	長調の単旋律聴音の導入、および三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.2を中心として行う
第4回	2分音符を中心とした2声聴音の導入、および四度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.3を中心として行う
第5回	4声体和声（密集）聴音の導入、および五度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.4を中心として行う
第6回	4/4拍子のリズム聴音、および六度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.5を中心として行う
第7回	短調の単旋律聴音の基礎練習、および七度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.6を中心として行う
第8回	4分音符を中心とした２声聴音の基礎練習、およびオクターヴの視唱練習を練習を「トスティ50番」No.7を中心として行う
第9回	4声体和声（密集）聴音の基礎練習、および二度音程と和音の変化の視唱練習を「トスティ50番」No.8を中心として行う
第10回	6/8拍子のリズム聴音、および二度・三度・四度音程と和音の変化の視唱練習を「トスティ50番」No.9を中心として行う
第11回	長調、短調の単旋律聴音の応用練習、および速いテンポで歌う二度・三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.10を中心として行う
第12回	8分音符を中心とした2声聴音の応用練習、および緩やかなテンポで歌う二度・三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.11を中心として行う
第13回	4声体和声（密集）聴音の応用練習、および切分音の伴奏型の上での視唱練習を「トスティ50番」No.12を中心として行う
第14回	リズム・単旋律・2声・4声体和声（密集）の聴音、および「トスティ50番」No.1～12を復習する
第15回	前期授業内容による総合演習
第16回	前期で学修した内容を含む聴音、およびタイを含む二度・三度・四度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.13を中心として行う
第17回	単旋律聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、およびタイと三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.14を中心として行う
第18回	高音部譜表の2声聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、および付点音符の視唱練習を「トスティ50番」No.15を中心として行う
第19回	ドッペルドミナントを含む4声体和声（密集）の聴音、および和声進行を感じながらの視唱練習を「トスティ50番」No.16を中心として行う
第20回	タイと三連符を多く含む単旋律聴音、および民謡風な旋律の視唱練習を「トスティ50番」No.17を中心として行う
第21回	低音部譜表の2声聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、およびバルカローレ風なリズムの視唱練習をを「トスティ50番」No.18を中心として行う
第22回	調号の多い4声体和声（密集）の聴音、および和音の変化と転調を感じながら視唱練習を「トスティ50番」No.19を中心として行う
第23回	音域の広い単旋律聴音、および速いパッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.20を中心として行う
第24回	大譜表の2声聴音、および二小節単位のフレーズの視唱練習を「トスティ50番」No.21を中心として行う
第25回	Ⅳ度調の属七を含む4声体和声（密集）の聴音、および速いテンポで歌う三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.22を中心として行う
第26回	跳躍を多く含む単旋律聴音、およびレガートな視唱を「トスティ50番」No.23を中心として行う
第27回	音域の広い2声聴音、および細かい音符の視唱を「トスティ50番」No.24を中心として行う
第28回	Ⅱ度調の属七を含む4声体和声（密集）の聴音、およびマルカートとレガートの視唱を「トスティ50番」No.25を中心として行う
第29回	総合的な内容を盛り込んだ聴音、および「トスティ50番」No.13～25の視唱を復習する
第30回	後期試験内容に即した総合演習

履修上の注意

基本ソルフェージュを履修するように指示があった学生は履修できない。プレイスメントテストまたは成績によりクラス分けを行うので指定されたクラスで受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の予習、復習、反復練習を十分に行うこと。視唱は楽譜を見るだけでなく、きちんと声を出して練習すること。聴音は授業内で実習した課題を鍵盤楽器などを用いて復習すること（120分/週）。15回目に行う総合演習の課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

「トスティ50番」中声用　畑中良輔他　（全音楽譜出版社）

科目名－クラス名

聴音・視唱ソルフェージュ①　D

曜日時限

木 1時限

担当教員

由雄　正恒

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音と視唱の訓練により、ソルフェージュ能力を養成する。

学修成果

この授業では、聴音（書き取り）と視唱（歌うことを通して（1）音程、リズム、音階などの感覚、（2）読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成）をテーマとし、リズム、単旋律、2声、4声体和声の書き取り及び視唱の初級程度の能力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　聴音と視唱の学修方法および授業ガイダンス

第2回　3/4拍子のリズム聴音、および二度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.１を中心として行う

第3回　長調の単旋律聴音の導入、および三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.2を中心として行う

第4回　2分音符を中心とした2声聴音の導入、および四度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.3を中心として行う

第5回　4声体和声（密集）聴音の導入、および五度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.4を中心として行う

第6回　4/4拍子のリズム聴音、および六度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.5を中心として行う

第7回　短調の単旋律聴音の基礎練習、および七度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.6を中心として行う

第8回　4分音符を中心とした２声聴音の基礎練習、およびオクターヴの視唱練習を練習を「トスティ50番」No.7を中心として行う

第9回　4声体和声（密集）聴音の基礎練習、および二度音程と和音の変化の視唱練習を「トスティ50番」No.8を中心として行う

第10回　6/8拍子のリズム聴音、および二度・三度・四度音程と和音の変化の視唱練習を「トスティ50番」No.9を中心として行う

第11回　長調、短調の単旋律聴音の応用練習、および速いテンポで歌う二度・三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.10を中心として行う

第12回　8分音符を中心とした2声聴音の応用練習、および緩やかなテンポで歌う二度・三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.11を中心として行う

第13回　4声体和声（密集）聴音の応用練習、および切分音の伴奏型の上での視唱練習を「トスティ50番」No.12を中心として行う

第14回　リズム・単旋律・2声・4声体和声（密集）の聴音、および「トスティ50番」No.1～12を復習する

第15回　前期授業内容による総合演習

第16回　前期で学修した内容を含む聴音、およびタイを含む二度・三度・四度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.13を中心として行う

第17回　単旋律聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、およびタイと三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.14を中心として行う

第18回　高音部譜表の2声聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、および付点音符の視唱練習を「トスティ50番」No.15を中心として行う

第19回　ドッペルドミナントを含む4声体和声（密集）の聴音、および和声進行を感じながらの視唱練習を「トスティ50番」No.16を中心として行う

第20回　タイと三連符を多く含む単旋律聴音、および民謡風な旋律の視唱練習を「トスティ50番」No.17を中心として行う

第21回　低音部譜表の2声聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、およびバルカローレ風なリズムの視唱練習をを「トスティ50番」No.18を中心として行う

第22回　調号の多い4声体和声（密集）の聴音、および和音の変化と転調を感じながら視唱練習を「トスティ50番」No.19を中心として行う

第23回　音域の広い単旋律聴音、および速いパッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.20を中心として行う

第24回　大譜表の2声聴音、および二小節単位のフレーズの視唱練習を「トスティ50番」No.21を中心として行う

第25回　Ⅳ度調の属七を含む4声体和声（密集）の聴音、および速いテンポで歌う三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.22を中心として行う

第26回　跳躍を多く含む単旋律聴音、およびレガートな視唱を「トスティ50番」No.23を中心として行う

第27回　音域の広い2声聴音、および細かい音符の視唱を「トスティ50番」No.24を中心として行う

第28回　Ⅱ度調の属七を含む4声体和声（密集）の聴音、およびマルカートとレガートの視唱を「トスティ50番」No.25を中心として行う

第29回　総合的な内容を盛り込んだ聴音、および「トスティ50番」No.13～25の視唱を復習する

第30回　後期試験内容に即した総合演習

履修上の注意

基本ソルフェージュを履修するように指示があった学生は履修できない。プレイスメントテストまたは成績によりクラス分けを行うので指定されたクラスで受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の予習、復習、反復練習を十分に行うこと。視唱は楽譜を見るだけでなく、きちんと声を出して練習すること。聴音は授業内で実習した課題を鍵盤楽器などを用いて復習すること（120分/週）。15回目に行う総合演習の課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

「トスティ50番」中声用　畑中良輔他　（全音楽譜出版社）

科目名－クラス名

聴音・視唱ソルフェージュ①　C

曜日時限

木 1時限

担当教員

由雄　正恒

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音と視唱の訓練により、ソルフェージュ能力を養成する。

学修成果

この授業では、聴音（書き取り）と視唱（歌うことを通して（1）音程、リズム、音階などの感覚、（2）読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成）をテーマとし、リズム、単旋律、2声、4声体和声の書き取り及び視唱の初級程度の能力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　聴音と視唱の学修方法および授業ガイダンス

第2回　3/4拍子のリズム聴音、および二度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.１を中心として行う

第3回　長調の単旋律聴音の導入、および三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.2を中心として行う

第4回　2分音符を中心とした２声聴音の導入、および四度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.3を中心として行う

第5回　4声体和声（密集）聴音の導入、および五度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.4を中心として行う

第6回　4/4拍子のリズム聴音、および六度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.5を中心として行う

第7回　短調の単旋律聴音の基礎練習、および七度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.6を中心として行う

第8回　4分音符を中心とした２声聴音の基礎練習、およびオクターヴの視唱練習を練習を「トスティ50番」No.7を中心として行う

第9回　4声体和声（密集）聴音の基礎練習、および二度音程と和音の変化の視唱練習を「トスティ50番」No.8を中心として行う

第10回　6/8拍子のリズム聴音、および二度・三度・四度音程と和音の変化の視唱練習を「トスティ50番」No.9を中心として行う

第11回　長調、短調の単旋律聴音の応用練習、および速いテンポで歌う二度・三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.10を中心として行う

第12回　8分音符を中心とした2声聴音の応用練習、および緩やかなテンポで歌う二度・三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.11を中心として行う

第13回　4声体和声（密集）聴音の応用練習、および切分音の伴奏型の上での視唱練習を「トスティ50番」No.12を中心として行う

第14回　リズム・単旋律・2声・4声体和声（密集）の聴音、および「トスティ50番」No.1～12を復習する

第15回　前期授業内容による総合演習

第16回　前期で学修した内容を含む聴音、およびタイを含む二度・三度・四度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.13を中心として行う

第17回　単旋律聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、およびタイと三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.14を中心として行う

第18回　高音部譜表の2声聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、および付点音符の視唱練習を「トスティ50番」No.15を中心として行う

第19回　ドッペルドミナントを含む4声体和声（密集）の聴音、および和声進行を感じながらの視唱練習を「トスティ50番」No.16を中心として行う

第20回　タイと三連符を多く含む単旋律聴音、および民謡風な旋律の視唱練習を「トスティ50番」No.17を中心として行う

第21回　低音部譜表の2声聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、およびバルカローレ風なリズムの視唱練習をを「トスティ50番」No.18を中心として行う

第22回　調号の多い4声体和声（密集）の聴音、および和音の変化と転調を感じながら視唱練習を「トスティ50番」No.19を中心として行う

第23回　音域の広い単旋律聴音、および速いパッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.20を中心として行う

第24回　大譜表の2声聴音、および二小節単位のフレーズの視唱練習を「トスティ50番」No.21を中心として行う

第25回　Ⅳ度調の属七を含む4声体和声（密集）の聴音、および速いテンポで歌う三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.22を中心として行う

第26回　跳躍を多く含む単旋律聴音、およびレガートな視唱を「トスティ50番」No.23を中心として行う

第27回　音域の広い2声聴音、および細かい音符の視唱を「トスティ50番」No.24を中心として行う

第28回　Ⅱ度調の属七を含む4声体和声（密集）の聴音、およびマルカートとレガートの視唱を「トスティ50番」No.25を中心として行う

第29回　総合的な内容を盛り込んだ聴音、および「トスティ50番」No.13～25の視唱を復習する

第30回　後期試験内容に即した総合演習

履修上の注意

基本ソルフェージュを履修するように指示があった学生は履修できない。プレイスメントテストまたは成績によりクラス分けを行うので指定されたクラスで受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の予習、復習、反復練習を十分に行うこと。視唱は楽譜を見るだけでなく、きちんと声を出して練習すること。聴音は授業内で実習した課題を鍵盤楽器などを用いて復習すること（120分/週）。15回目に行う総合演習の課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

「トスティ50番」中声用　畑中良輔他　（全音楽譜出版社）

科目名－クラス名

聴音・視唱ソルフェージュ①　D

曜日時限

木 1時限

担当教員

由雄　正恒

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

演奏や創作能力などを向上させるにはソルフェージュによる訓練は必要不可欠である。リズム感、フレーズ感、和声感、聴取感など、音楽を表現するための基礎となる能力を養うことがソルフェージュを学ぶ目的である。この授業では聴音と視唱の訓練により、ソルフェージュ能力を養成する。

学修成果

この授業では、聴音（書き取り）と視唱（歌うことを通して（1）音程、リズム、音階などの感覚、（2）読譜、記譜、旋律暗記などの能力の養成）をテーマとし、リズム、単旋律、2声、4声体和声の書き取り及び視唱の初級程度の能力を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　聴音と視唱の学修方法および授業ガイダンス

第2回　3/4拍子のリズム聴音、および二度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.１を中心として行う

第3回　長調の単旋律聴音の導入、および三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.2を中心として行う

第4回　2分音符を中心とした２声聴音の導入、および四度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.3を中心として行う

第5回　4声体和声（密集）聴音の導入、および五度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.4を中心として行う

第6回　4/4拍子のリズム聴音、および六度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.5を中心として行う

第7回　短調の単旋律聴音の基礎練習、および七度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.6を中心として行う

第8回　4分音符を中心とした２声聴音の基礎練習、およびオクターヴの視唱練習を練習を「トスティ50番」No.7を中心として行う

第9回　4声体和声（密集）聴音の基礎練習、および二度音程と和音の変化の視唱練習を「トスティ50番」No.8を中心として行う

第10回　6/8拍子のリズム聴音、および二度・三度・四度音程と和音の変化の視唱練習を「トスティ50番」No.9を中心として行う

第11回　長調、短調の単旋律聴音の応用練習、および速いテンポで歌う二度・三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.10を中心として行う

第12回　8分音符を中心とした2声聴音の応用練習、および緩やかなテンポで歌う二度・三度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.11を中心として行う

第13回　4声体和声（密集）聴音の応用練習、および切分音の伴奏型の上での視唱練習を「トスティ50番」No.12を中心として行う

第14回　リズム・単旋律・2声・4声体和声（密集）の聴音、および「トスティ50番」No.1～12を復習する

第15回　前期授業内容による総合演習

第16回　前期で学修した内容を含む聴音、およびタイを含む二度・三度・四度音程の視唱練習を「トスティ50番」No.13を中心として行う

第17回　単旋律聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、およびタイと三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.14を中心として行う

第18回　高音部譜表の2声聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、および付点音符の視唱練習を「トスティ50番」No.15を中心として行う

第19回　ドッペルドミナントを含む4声体和声（密集）の聴音、および和声進行を感じながらの視唱練習を「トスティ50番」No.16を中心として行う

第20回　タイと三連符を多く含む単旋律聴音、および民謡風な旋律の視唱練習を「トスティ50番」No.17を中心として行う

第21回　低音部譜表の2声聴音をより複雑なリズム・変化音で行い、およびバルカローレ風なリズムの視唱練習をを「トスティ50番」No.18を中心として行う

第22回　調号の多い4声体和声（密集）の聴音、および和音の変化と転調を感じながら視唱練習を「トスティ50番」No.19を中心として行う

第23回　音域の広い単旋律聴音、および速いパッセージの視唱練習を「トスティ50番」No.20を中心として行う

第24回　大譜表の2声聴音、および二小節単位のフレーズの視唱練習を「トスティ50番」No.21を中心として行う

第25回　Ⅳ度調の属七を含む4声体和声（密集）の聴音、および速いテンポで歌う三連符の視唱練習を「トスティ50番」No.22を中心として行う

第26回　跳躍を多く含む単旋律聴音、およびレガートな視唱を「トスティ50番」No.23を中心として行う

第27回　音域の広い2声聴音、および細かい音符の視唱を「トスティ50番」No.24を中心として行う

第28回　Ⅱ度調の属七を含む4声体和声（密集）の聴音、およびマルカートとレガートの視唱を「トスティ50番」No.25を中心として行う

第29回　総合的な内容を盛り込んだ聴音、および「トスティ50番」No.13～25の視唱を復習する

第30回　後期試験内容に即した総合演習

履修上の注意

基本ソルフェージュを履修するように指示があった学生は履修できない。プレイスメントテストまたは成績によりクラス分けを行うので指定されたクラスで受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

毎回の予習、復習、反復練習を十分に行うこと。視唱は楽譜を見るだけでなく、きちんと声を出して練習すること。聴音は授業内で実習した課題を鍵盤楽器などを用いて復習すること（120分/週）。15回目に行う総合演習の課題は、授業内、または後期の最初に採点結果に基づくアドバイスをそれぞれに対して行う。また毎授業内でも課題に対する個別アドバイスを行う。

教科書・参考書

「トスティ50番」中声用　畑中良輔他　（全音楽譜出版社）

科目名－クラス名

電子音響制作特別演習

曜日時限

火 4時限

担当教員

由雄　正恒

授業形態	開講年次	開講期	単位数
演習	1～	通年	2

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	100	0	0	0	100

教育到達目標と概要

作曲専攻が対象。20世紀の電子テクノロジーの進化は、音楽創造活動の様々なシーンに多くの影響を与えた。電子音響音楽、コンピュータ音楽はその結果生まれた新しいジャンルの一つとして、現代の音楽創造を語る上で重要な位置を占める音楽活動となっている。それらの音楽作品における手法についての研究は、方法論を理解するだけではなく、現代の音楽について考察していく上でも重要である。

学修成果

コンピュータ音楽および録音編集機器による音楽作品を創作するための方法論について研究を行い、その音楽についての幅広い検証と創作ができるようになる。

授業展開と内容

第1回　音楽作品で用いられる電子音響機器の操作法研究　－導入－

第2回　音楽作品で用いられる電子音響機器の操作法研究　－基本－

第3回　音楽作品で用いられる電子音響機器の操作法研究　－応用－

第4回　音楽作品で用いられる電子音響機器の操作法研究　－実践－

第5回　音楽作品で用いられる電子音響機器の操作法研究　－総合－

第6回　音楽作品で用いられる電子音響機器の操作法研究　－まとめ－

第7回　コンピュータソフトウエアを用いての音響制作研究　－導入－

第8回　コンピュータソフトウエアを用いての音響制作研究　－基本－

第9回　コンピュータソフトウエアを用いての音響制作研究　－応用－

第10回　コンピュータソフトウエアを用いての音響制作研究　－実践－

第11回　コンピュータソフトウエアを用いての音響制作研究　－総合－

第12回　コンピュータソフトウエアを用いての音響制作研究　－まとめ－

第13回　前期課題研究（メディア作品の創作研究） -実践-

第14回　前期課題研究（メディア作品の創作研究） -応用-

第15回　前期課題研究（メディア作品の創作研究） -総合-

第16回　コンピュータ音楽、電子音響音楽の楽曲分析　－導入－

第17回　コンピュータ音楽、電子音響音楽の楽曲分析　－基本－

第18回　コンピュータ音楽、電子音響音楽の楽曲分析　－応用－

第19回　コンピュータ音楽、電子音響音楽の楽曲分析　－実践－

第20回　コンピュータ音楽、電子音響音楽の楽曲分析　－発展－

第21回　コンピュータ音楽、電子音響音楽の楽曲分析　－総合－

第22回　コンピュータ音楽、電子音響音楽の楽曲分析　－まとめ－

第23回　後期課題研究（電子音響作品の創作研究）-導入-

第24回　後期課題研究（電子音響作品の創作研究）-基本-

第25回　後期課題研究（電子音響作品の創作研究）-応用-

第26回　後期課題研究（電子音響作品の創作研究）-実践（構想）-

第27回　後期課題研究（電子音響作品の創作研究）-実践（スケッチ）-

第28回　後期課題研究（電子音響作品の創作研究）-実践（アレンジ）-

第29回　後期課題研究（電子音響作品の創作研究）-実践（ミキシング）-

第30回　後期課題研究（電子音響作品の創作研究）-まとめ-

履修上の注意

作曲を専門とする者を対象とした授業内容である。電子音響機器、コンピュータについての基礎知識を理解した上で履修すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

C411、C418の教室貸し出し時間を利用して、各授業回で学修した内容について復習および予習（30分）の準備学修を行うこと。課題については各授業回に進捗を確認しフィードバックを行う。

教科書・参考書

必要に応じて、プリントの配付や指示をその都度与える。

科目名－クラス名

博士研究指導

曜日時限

他

担当教員

由雄　正恒

授業形態	開講年次	開講期	単位数
その他	1～	通年	0

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	100	0	0	0	100

教育到達目標と概要

博士課程における研究を総括するとともに、その根幹をなす科目であり、1年次～3年次を通じて設置される専門科目である。3年間を通じての全体的な研究計画、および年次ごとの研究計画を策定し、その研究成果の検証と評価を行う。各専門分野の研究指導教員（声楽演奏実技、器楽演奏実技、または作曲実技に関する研究指導を主に担当）と音楽学の研究指導教員（学術的な視点からの研究指導を主に担当）による複数指導体制とする。必要に応じて、研究指導補助教員、またはオブザーバーの教員が加わることがある。
学生は、毎年度の初頭に、当該年度

学修成果

明確な問題意識を持って研究対象を定め、その対象の特質や問題の設定に応じた正しい方法論を選択し、それに従って計画的に研究を遂行する一連のプロセス（研究におけるPlan-Do-Check-Actのプロセス）を修得し、自立した研究者となるためのしての素養を身に付けることができる。

授業展開と内容

第1回　①1年次
＜4～5月＞
3年間を通じて取り組む研究課題とその実施計画、および当年度の実技研究についての具体的な研究計画書と博士論文の執筆計画書を提出する。
これに基づき、学生と担当する研究指導教員の全員が一堂に会して研究指導を行う。学生は、その内容や方法論に関して指導とオーソライズ（承認）を受ける。

＜1～2月＞
当年度の実技研究の成果および博士論文執筆の進捗状況を文書により報告する（論文については、1年の成果を8,000～12,000字程度の論文の形でまとめ、添付するのが望ましい）。

第2回　②2年次
＜4～5月＞
当年度の実技研究についての具体的な研究計画書、および博士論文の執筆計画書を提出する。
これに基づき、学生と担当する研究指導教員の全員が一堂に会して研究指導を行う。
学生は、その内容や方法論に関して指導とオーソライズ（承認）を受ける。

＜1～2月＞
次年度に「博士学位審査」を受ける予定の者は、「博士学位予備審査」を受ける。
これに先立ち、定められた様式により、学位審査において演奏する曲目とその選曲意図、または提出する作品タイトルと概要、および「博士論文の概要」（8,

第3回　③第3年次（最終年次）
＜4～5月＞
当年度の実技研究についての具体的な研究計画書、および博士論文の執筆計画書を提出する。
これに基づき、学生と担当する研究指導教員の全員が一堂に会して面談を行う研究指導を行う。
学生は、その内容や方法論に関して指導とオーソライズ（承認）を受ける。

＜10月＞
博士論文を所定の期日までに提出する。

＜1～3月＞
3年間の実技の研究成果を総括するものとしての「博士研究演奏」（声楽、器楽）または「研究作品」の提出（作曲）。
研究演奏または研究作品、およ

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

研究指導を受けるためには、各自が期日までに申込書を提出しなければならない。研究指導の日程は、指導教員のスケジュールを参考に専攻の部会が決定する。「研究進捗状況報告書」の提出期限、「博士年次演奏発表」「博士年次研究作品提出」の日程、および「博士学位予備審査」の申請期限・日程は別途発表する。
※なお「博士学位予備申請」または「学位審査」を行わない年度は、いずれも年度末に「研究進捗状況報告書」を提出し、「博士年次演奏発表」または「博士年次研究作品提出」を行う。
上記の授業回数は便宜上第１回に１年次、第２回に

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

年次ごとの研究計画に沿って、各自が系統的かつ計画的に研究を進めること。その成果は各回の研究指導において検討・評価され、必要に応じた指導を受けることができる。

教科書・参考書

指定なし。研究主題、進捗状況に応じて、各自必要な先行研究を十分に参照すること。

科目名－クラス名

作曲②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

作曲①に引き続き、クラシック、ポピュラーなど様々なジャンルの楽曲について知識を高め、それらの作曲・アレンジの技術の修得。週1回（45分）の個人レッスンにて、作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。加えて作曲理論や形式の理解をベースとして、演奏の主科実技の音楽表現に活かすための作曲・アレンジの知識を修得する。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

作曲面では、ピアノ曲の自作自演ができるようになる。４重奏までの楽曲の作曲ができるようになる。歌曲が作曲できるようになる。理論面では、主科実技で演奏している楽曲に対して、作曲の視点から応用的なアナリーゼができるようになる。作曲に必要な理論と方法について理解したことを実践できるようになる。様々な楽式について理解できるようになる。アレンジ面では管楽器、弦楽器、打楽器のアレンジについて理解を深めることができる。室内楽編成の楽曲をピアノ曲にアレンジできるようになる。ピアノ曲を室内楽編成にアレンジできるようになる。

授業展開と内容

第1回　作曲・アレンジについての概要（応用編）

第2回　作曲・アレンジに必要な知識（応用編）

第3回　モチーフとその役割について（応用編）

第4回　メロディの組み立てとモチーフの展開（応用編）

第5回　メロディーとハーモニー、コードの関係、伴奏の働きとその作り方（応用編）

第6回　クラシックに学ぶハーモニーの作り方 - 古典派、ロマン派の音楽を例に（応用編）

第7回　ポピュラーに学ぶハーモニーの作り方、コードネームの理解 - 洋楽、J-POPを例に（応用編）

第8回　様々なハーモニーについて（応用編）

第9回　リズムの原理（応用編）

第10回　形式の種類（応用編）

第11回　形式に沿った楽曲の組み立て方（応用編）

第12回　形式の理解と作曲の実践（変奏曲）

第13回　発展させた形式の理解と作曲の実践（変奏曲）

第14回　さらに発展させた形式の理解と作曲の実践（変奏曲）

第15回　前期のまとめ

第16回　形式の理解と作曲の実践（ロンド形式）

第17回　発展させた形式の理解と作曲の実践（ロンド形式）

第18回　さらに発展させた形式の理解と作曲の実践（ロンド形式）

第19回　形式の理解と作曲の実践（ソナタ形式）

第20回　発展させた形式の理解と作曲の実践（ソナタ形式）

第21回　作曲・アレンジの実践（応用編） - ピアノ曲を室内楽編成にアレンジ

第22回　作曲・アレンジの実践（応用編） - 室内楽編成の楽曲をピアノ曲にアレンジ

第23回　作曲・アレンジの実践（応用編） - 二重奏曲～四重奏曲のスタイル

第24回　作曲・アレンジの実践（応用編） - 二重奏曲～四重奏曲の創作

第25回　作曲・アレンジの実践（応用編） - 歌曲、ソングライティング（詩とメロディの関係）について

第26回　年度末作品制作 - 曲の構想を考える

第27回　年度末作品制作 - 楽曲のスケッチ

第28回　年度末作品制作 - 楽曲の展開

第29回　年度末作品制作 - 仕上げ

第30回 まとめ

履修上の注意

課題および作曲はレッスン内だけでなく、予習・復習を含め日常的に取り組み、担当教員の指示に従うこと。レッスンでは、毎回、練習課題の実施を伴う。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

必要に応じて指示をその都度与える。

科目名－クラス名

作曲②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	4

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

作曲①に引き続き、クラシック、ポピュラーなど様々なジャンルの楽曲について知識を高め、それらの作曲・アレンジの技術の修得。週1回（45分）の個人レッスンにて、作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。加えて作曲理論や形式の理解をベースとして、演奏の主科実技の音楽表現に活かすための作曲・アレンジの知識を修得する。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

作曲面では、ピアノ曲の自作自演ができるようになる。４重奏までの楽曲の作曲ができるようになる。歌曲が作曲できるようになる。理論面では、主科実技で演奏している楽曲に対して、作曲の視点から応用的なアナリーゼができるようになる。作曲に必要な理論と方法について理解したことを実践できるようになる。様々な楽式について理解できるようになる。アレンジ面では管楽器、弦楽器、打楽器のアレンジについて理解を深めることができる。室内楽編成の楽曲をピアノ曲にアレンジできるようになる。ピアノ曲を室内楽編成にアレンジできるようになる。

授業展開と内容

第1回　作曲・アレンジについての概要（応用編）

第2回　作曲・アレンジに必要な知識（応用編）

第3回　モチーフとその役割について（応用編）

第4回　メロディの組み立てとモチーフの展開（応用編）

第5回　メロディーとハーモニー、コードの関係、伴奏の働きとその作り方（応用編）

第6回　クラシックに学ぶハーモニーの作り方 - 古典派、ロマン派の音楽を例に（応用編）

第7回　ポピュラーに学ぶハーモニーの作り方、コードネームの理解 - 洋楽、J-POPを例に（応用編）

第8回　様々なハーモニーについて（応用編）

第9回　リズムの原理（応用編）

第10回　形式の種類（応用編）

第11回　形式に沿った楽曲の組み立て方（応用編）

第12回　形式の理解と作曲の実践（変奏曲）

第13回　発展させた形式の理解と作曲の実践（変奏曲）

第14回　さらに発展させた形式の理解と作曲の実践（変奏曲）

第15回　前期のまとめ

第16回　形式の理解と作曲の実践（ロンド形式）

第17回　発展させた形式の理解と作曲の実践（ロンド形式）

第18回　さらに発展させた形式の理解と作曲の実践（ロンド形式）

第19回　形式の理解と作曲の実践（ソナタ形式）

第20回　発展させた形式の理解と作曲の実践（ソナタ形式）

第21回　作曲・アレンジの実践（応用編） - ピアノ曲を室内楽編成にアレンジ

第22回　作曲・アレンジの実践（応用編） - 室内楽編成の楽曲をピアノ曲にアレンジ

第23回　作曲・アレンジの実践（応用編） - 二重奏曲～四重奏曲のスタイル

第24回　作曲・アレンジの実践（応用編） - 二重奏曲～四重奏曲の創作

第25回　作曲・アレンジの実践（応用編） - 歌曲、ソングライティング（詩とメロディの関係）について

第26回　年度末作品制作 - 曲の構想を考える

第27回　年度末作品制作 - 楽曲のスケッチ

第28回　年度末作品制作 - 楽曲の展開

第29回　年度末作品制作 - 仕上げ

第30回 まとめ

履修上の注意

課題および作曲はレッスン内だけでなく、予習・復習を含め日常的に取り組み、担当教員の指示に従うこと。レッスンでは、毎回、練習課題の実施を伴う。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

必要に応じて指示をその都度与える。

科目名－クラス名

創作実技①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

作曲に必要な基本の技術を修得することを目標とする。週1回（60分）の個人レッスンにて、作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術とDAWソフトでの作曲方法を学修する。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

作品分析などを通して楽式の知識を身につけることをテーマとし、作曲に必要な基本の技術を修得することを目標とする。

授業展開と内容

第1回　楽曲分析（作曲家の時代背景）

第2回　楽曲分析（作曲家と社会との関わり）

第3回　楽曲分析（作曲家と芸術家との関わり）

第4回　楽曲分析（カデンツと和声）、コンピュータを使用した音楽についての導入

第5回　作曲技法の実践（カデンツと和声）、コンピュータを使用した音楽についての基本

第6回　楽曲分析（基本形式）、電子楽器についての導入

第7回　作曲技法の実践（基本形式）、電子楽器についての基本

第8回　楽曲分析（２部形式）、電子楽器についての応用

第9回　作曲技法の実践（２部形式）、ソフトシンセについての導入

第10回　楽曲分析（３部形式）、ソフトシンセについての基本

第11回　作曲技法の実践（３部形式）、ソフトシンセについての応用

第12回　楽曲分析（複合２部・３部形式）、DAWソフトを使用した楽曲制作の導入

第13回　作曲技法の実践（複合２部・３部形式）、DAWソフトを使用した楽曲制作の基本

第14回　楽曲分析（ロンド形式）、DAWソフトを使用した楽曲制作の応用

第15回　作曲技法の実践（ロンド形式）、DAWソフトを使用した楽曲制作の実践

第16回　楽曲分析（変奏曲）、DTM楽曲の導入

第17回　作曲技法の実践（変奏曲）、DTM楽曲の基本

第18回　楽曲分析（ソナタ形式）、DTM楽曲の応用

第19回　作曲技法の実践（ソナタ形式）導入、DTM楽曲の実践

第20回　楽曲分析（ソナタ形式）発展、DTM楽曲の実践

第21回　作曲技法の実践（ソナタ形式）、DTM楽曲のまとめ

第22回　年度末提出作品の創作（概要）

第23回　年度末提出作品の創作（テーマ決め）導入

第24回　年度末提出作品の創作（テーマ決め）発展

第25回　年度末提出作品の創作（モチーフと構造）導入

第26回　年度末提出作品の創作（モチーフと構造）発展

第27回　年度末提出作品の創作（全体のスケッチ）導入

第28回　年度末提出作品の創作（全体のスケッチ）発展

第29回　年度末提出作品の創作（仕上げ）導入

第30回　年度末提出作品の創作（仕上げ）発展

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけではなく、予習・復習を含め日常的に取り組み、担当教員の指示に従うこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

必要に応じて指示をその都度与える。

科目名－クラス名

作曲・エレクトロニクス実技①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

西洋の古典的な音楽作品から現代の音楽作品に触れることによって、作曲のための方法論を見出す。週1回（60分）の個人レッスンにて、作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を学修する。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

様々な作曲家の作品分析などを通して楽式の知識と感覚を身につけることをテーマとし、作曲に必要な基本の技術を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　楽曲分析（作曲家の時代背景）と作曲技法について

第2回　楽曲分析（作曲家と社会との関わり）と作曲技法について

第3回　楽曲分析（作曲家と芸術家との関わり）と作曲技法について

第4回　楽曲分析（カデンツと和声）と作曲技法について

第5回　楽曲分析（応用形式）と作曲技法について

第6回　楽器法と作曲技法の研究（導入）

第7回　楽器法と作曲技法の研究（基本）

第8回　楽器法と作曲技法の研究（応用）

第9回　楽器法と作曲技法の研究（実践）

第10回　楽器法と作曲技法の研究（総括）

第11回　楽曲分析（ソナタ形式）の研究と作曲技法の実践（導入）

第12回　楽曲分析（ソナタ形式）の研究と作曲技法の実践（基本）

第13回　楽曲分析（ソナタ形式）の研究と作曲技法の実践（応用）

第14回　楽曲分析（ソナタ形式）の研究と作曲技法の実践（総括）

第15回　前期の振り返り・まとめ

第16回　二重奏までの室内楽の創作研究（導入）

第17回　二重奏までの室内楽の創作研究（基本）

第18回　二重奏までの室内楽の創作研究（応用）

第19回　二重奏までの室内楽の創作研究（総括）

第20回　二重奏までの室内楽の作曲技法の実践（基本）

第21回　二重奏までの室内楽の作曲技法の実践（応用）

第22回　二重奏までの室内楽の作曲技法の実践（総括）

第23回　年度末提出作品の創作（曲の構想）

第24回　年度末提出作品の創作（モチーフ）

第25回　年度末提出作品の創作（構造）

第26回　年度末提出作品の創作（全体のスケッチ）

第27回　年度末提出作品の創作（全体のまとめ）

第28回　年度末提出作品の創作（仕上げ）

第29回　年度末提出作品の創作（総括）

第30回　年間の振り返り・まとめ

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけでなく、予習・復習を含め日常的に取り組むこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

適宜資料を配付する

科目名－クラス名

作曲・エレクトロニクス実技①

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	1～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

西洋の古典的な音楽作品から現代の音楽作品に触れることによって、作曲のための方法論を見出す。週1回（60分）の個人レッスンにて、作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を学修する。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

様々な作曲家の作品分析などを通して楽式の知識と感覚を身につけることをテーマとし、作曲に必要な基本の技術を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　楽曲分析（作曲家の時代背景）と作曲技法について

第2回　楽曲分析（作曲家と社会との関わり）と作曲技法について

第3回　楽曲分析（作曲家と芸術家との関わり）と作曲技法について

第4回　楽曲分析（カデンツと和声）と作曲技法について

第5回　楽曲分析（応用形式）と作曲技法について

第6回　楽器法と作曲技法の研究（導入）

第7回　楽器法と作曲技法の研究（基本）

第8回　楽器法と作曲技法の研究（応用）

第9回　楽器法と作曲技法の研究（実践）

第10回　楽器法と作曲技法の研究（総括）

第11回　楽曲分析（ソナタ形式）の研究と作曲技法の実践（導入）

第12回　楽曲分析（ソナタ形式）の研究と作曲技法の実践（基本）

第13回　楽曲分析（ソナタ形式）の研究と作曲技法の実践（応用）

第14回　楽曲分析（ソナタ形式）の研究と作曲技法の実践（総括）

第15回　前期の振り返り・まとめ

第16回　二重奏までの室内楽の創作研究（導入）

第17回　二重奏までの室内楽の創作研究（基本）

第18回　二重奏までの室内楽の創作研究（応用）

第19回　二重奏までの室内楽の創作研究（総括）

第20回　二重奏までの室内楽の作曲技法の実践（基本）

第21回　二重奏までの室内楽の作曲技法の実践（応用）

第22回　二重奏までの室内楽の作曲技法の実践（総括）

第23回　年度末提出作品の創作（曲の構想）

第24回　年度末提出作品の創作（モチーフ）

第25回　年度末提出作品の創作（構造）

第26回　年度末提出作品の創作（全体のスケッチ）

第27回　年度末提出作品の創作（全体のまとめ）

第28回　年度末提出作品の創作（仕上げ）

第29回　年度末提出作品の創作（総括）

第30回　年間の振り返り・まとめ

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけでなく、予習・復習を含め日常的に取り組むこと。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

適宜資料を配付する

科目名－クラス名

作曲・エレクトロニクス実技②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

幅広く作曲ができるようになるための技量を身につける。週1回（60分）の個人レッスンにて、作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を学修する。エレクトロニカ系では基本的なDAWソフトでの作曲方法を学修する。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

作曲・エレクトロニクス実技①で学んだ内容を踏まえて作曲技術を向上させることができる。

授業展開と内容

第1回	リズムの分析と作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての導入（エレクトロニカ系）
第2回	上記楽曲分析からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての基本（エレクトロニカ系）
第3回	上記楽曲分析からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての実践（エレクトロニカ系）
第4回	メロディーの分析と作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての導入（エレクトロニカ系）
第5回	上記楽曲分析からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての基本（エレクトロニカ系）
第6回	上記楽曲分析からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての実践（エレクトロニカ系）
第7回	１回～６回までの総括
第8回	クラシック音楽またはコンピュータ音楽の作曲技法の導入
第9回	クラシック音楽またはコンピュータ音楽の作曲技法の基本
第10回	クラシック音楽またはコンピュータ音楽の作曲技法の応用
第11回	クラシック音楽またはコンピュータ音楽の作曲技法の実践
第12回	アコースティック楽器または電子楽器を使用した楽曲制作の基礎
第13回	アコースティック楽器または電子楽器を使用した楽曲制作の応用
第14回	アコースティック楽器または電子楽器を使用した楽曲制作の実践
第15回	前期の振り返り・まとめ
第16回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の創作研究についての導入
第17回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の創作研究についての基本
第18回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の創作研究についての応用
第19回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の創作研究についての総括
第20回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の作曲技法についての基本
第21回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の作曲技法についての応用
第22回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の作曲技法についての総括
第23回	年度末提出作品の創作（曲の構想）
第24回	年度末提出作品の創作（モチーフ）
第25回	年度末提出作品の創作（構造）
第26回	年度末提出作品の創作（全体のスケッチ）
第27回	年度末提出作品の創作（全体のまとめ）
第28回	年度末提出作品の創作（仕上げ）
第29回	年度末提出作品の創作（総括）
第30回	年間の振り返り・まとめ

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけでなく、予習・復習を含め日常的に取り組むこと

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

適宜資料を配付する

科目名－クラス名

作曲・エレクトロニクス実技②

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	2～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

幅広く作曲ができるようになるための技量を身につける。週1回（60分）の個人レッスンにて、作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を学修する。エレクトロニカ系では基本的なDAWソフトでの作曲方法を学修する。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

作曲・エレクトロニクス実技①で学んだ内容を踏まえて作曲技術を向上させることができる。

授業展開と内容

第1回	リズムの分析と作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての導入（エレクトロニカ系）
第2回	上記楽曲分析からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての基本（エレクトロニカ系）
第3回	上記楽曲分析からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての実践（エレクトロニカ系）
第4回	メロディーの分析と作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての導入（エレクトロニカ系）
第5回	上記楽曲分析からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての基本（エレクトロニカ系）
第6回	上記楽曲分析からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽についての実践（エレクトロニカ系）
第7回	１回～６回までの総括
第8回	クラシック音楽またはコンピュータ音楽の作曲技法の導入
第9回	クラシック音楽またはコンピュータ音楽の作曲技法の基本
第10回	クラシック音楽またはコンピュータ音楽の作曲技法の応用
第11回	クラシック音楽またはコンピュータ音楽の作曲技法の実践
第12回	アコースティック楽器または電子楽器を使用した楽曲制作の基礎
第13回	アコースティック楽器または電子楽器を使用した楽曲制作の応用
第14回	アコースティック楽器または電子楽器を使用した楽曲制作の実践
第15回	前期の振り返り・まとめ
第16回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の創作研究についての導入
第17回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の創作研究についての基本
第18回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の創作研究についての応用
第19回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の創作研究についての総括
第20回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の作曲技法についての基本
第21回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の作曲技法についての応用
第22回	二重奏から五重奏までの室内楽（芸術音楽作曲系）、DTM（エレクトロニカ系）の作曲技法についての総括
第23回	年度末提出作品の創作（曲の構想）
第24回	年度末提出作品の創作（モチーフ）
第25回	年度末提出作品の創作（構造）
第26回	年度末提出作品の創作（全体のスケッチ）
第27回	年度末提出作品の創作（全体のまとめ）
第28回	年度末提出作品の創作（仕上げ）
第29回	年度末提出作品の創作（総括）
第30回	年間の振り返り・まとめ

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけでなく、予習・復習を含め日常的に取り組むこと

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

適宜資料を配付する

科目名－クラス名

作曲・エレクトロニクス実技③

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	3～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

週1回（60分）の個人レッスンにより、作曲・エレクトロニクス実技①②で学んだ内容を踏まえて、作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を修得する。エレクトロニカ系ではコンピュータ音楽・録音制作・音響機器操作の技術を活かした創作を行う。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

幅広い音楽ジャンルをカバーする作曲技術を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　高度な楽曲分析の導入（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽について（エレクトロニカ系）

第2回　上記楽曲分析からの作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の導入（エレクトロニカ系）

第3回　高度な楽曲分析の基本（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の基礎（エレクトロニカ系）

第4回　上記楽曲分析からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の応用（エレクトロニカ系）

第5回　高度な楽曲分析の実践（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の基礎（エレクトロニカ系）

第6回　上記楽曲分析からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の応用（エレクトロニカ系）

第7回　高度な楽曲分析の総合演習（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の実践（エレクトロニカ系）

第8回　上記楽曲分析からの作曲技法の総合演習（芸術音楽作曲系）、２?７回までの総括（エレクトロニカ系）

第9回　高度な楽器法の導入（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の導入（エレクトロニカ系）

第10回　上記楽器法からの作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の基礎（エレクトロニカ系）

第11回　高度な楽器法の基本（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の応用（エレクトロニカ系）

第12回　上記楽器法からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の基礎（エレクトロニカ系）

第13回　高度な楽器法の実践（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の応用（エレクトロニカ系）

第14回　上記楽器法からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の実践（エレクトロニカ系）

第15回　前期の振り返り・まとめ

第16回　室内楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての導入

第17回　室内楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての基礎

第18回　室内楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての応用

第19回　管弦楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての導入

第20回　管弦楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての応用

第21回　管弦楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての実践

第22回　１回?６回までの総括

第23回　年度末作品について

第24回　作品の創作（構想）

第25回　作品の創作（モチーフ）

第26回　作品の創作（構造）

第27回　作品の創作（全体のスケッチ）

第28回　作品の創作（全体のまとめ）

第29回　作品の創作（仕上げ）

第30回　年間の振り返り・まとめ

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけではなく、予習・復習を含めて日常的に取り組むこと

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

適宜資料を配付する

科目名－クラス名

作曲・エレクトロニクス実技③

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	3～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

週1回（60分）の個人レッスンにより、作曲・エレクトロニクス実技①②で学んだ内容を踏まえて、作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を修得する。エレクトロニカ系ではコンピュータ音楽・録音制作・音響機器操作の技術を活かした創作を行う。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

幅広い音楽ジャンルをカバーする作曲技術を身につけることができる。

授業展開と内容

第1回　高度な楽曲分析の導入（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽について（エレクトロニカ系）

第2回　上記楽曲分析からの作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の導入（エレクトロニカ系）

第3回　高度な楽曲分析の基本（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の基礎（エレクトロニカ系）

第4回　上記楽曲分析からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の応用（エレクトロニカ系）

第5回　高度な楽曲分析の実践（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の基礎（エレクトロニカ系）

第6回　上記楽曲分析からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の応用（エレクトロニカ系）

第7回　高度な楽曲分析の総合演習（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の実践（エレクトロニカ系）

第8回　上記楽曲分析からの作曲技法の総合演習（芸術音楽作曲系）、２～７回までの総括（エレクトロニカ系）

第9回　高度な楽器法の導入（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の導入（エレクトロニカ系）

第10回　上記楽器法からの作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の基礎（エレクトロニカ系）

第11回　高度な楽器法の基本（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の応用（エレクトロニカ系）

第12回　上記楽器法からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の基礎（エレクトロニカ系）

第13回　高度な楽器法の実践（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の応用（エレクトロニカ系）

第14回　上記楽器法からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の実践（エレクトロニカ系）

第15回　前期の振り返り・まとめ

第16回　室内楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての導入

第17回　室内楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての基礎

第18回　室内楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての応用

第19回　管弦楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての導入

第20回　管弦楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての応用

第21回　管弦楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての実践

第22回　１回～６回までの総括

第23回　年度末作品について

第24回　作品の創作（構想）

第25回　作品の創作（モチーフ）

第26回　作品の創作（構造）

第27回　作品の創作（全体のスケッチ）

第28回　作品の創作（全体のまとめ）

第29回　作品の創作（仕上げ）

第30回　年間の振り返り・まとめ

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけではなく、予習・復習を含めて日常的に取り組むこと

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

適宜資料を配付する

科目名－クラス名

作曲・エレクトロニクス実技④

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	4～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

週1回（60分）の個人レッスン。卒業作品の創作に必要な技量を身に付けることを目標とする。作曲・エレクトロニクス実技①?③で学んだ内容を踏まえて作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を修得する。エレクトロニカ系ではコンピュータ音楽・録音制作・音響機器操作の技術を活かした創作を行う。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

創作に必要な理論の理解と技術を用い、幅広い作品の創作ができるようになる。

授業展開と内容

第1回	卒業作品のテーマに基づいて、楽曲分析の導入（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽について（エレクトロニカ系）
第2回	上記楽曲分析からの作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の導入（エレクトロニカ系）
第3回	卒業作品のテーマに基づいて、楽曲分析の基本（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の基礎（エレクトロニカ系）
第4回	上記楽曲分析からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の応用（エレクトロニカ系）
第5回	卒業作品のテーマに基づいて、楽曲分析の実践（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の基礎（エレクトロニカ系）
第6回	上記楽曲分析からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の応用（エレクトロニカ系）
第7回	卒業作品のテーマに基づいて、楽曲分析の総合演習（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の実践（エレクトロニカ系）
第8回	上記楽曲分析からの作曲技法の総合演習（芸術音楽作曲系）、２?７回までの総括（エレクトロニカ系）
第9回	卒業作品のテーマに基づいて、楽器法の導入（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の導入（エレクトロニカ系）
第10回	上記楽器法からの作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の基礎（エレクトロニカ系）
第11回	卒業作品のテーマに基づいて、楽器法の基本（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の応用（エレクトロニカ系）
第12回	上記楽器法からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の基礎（エレクトロニカ系）
第13回	卒業作品のテーマに基づいて、楽器法の実践（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の応用（エレクトロニカ系）
第14回	上記楽器法からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の実践（エレクトロニカ系）
第15回	前期の振り返り・まとめ
第16回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての導入
第17回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての基礎
第18回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての応用
第19回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての導入
第20回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての応用
第21回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての実践
第22回	１回?６回までの総括
第23回	卒業作品の創作（コンセプトとテーマ）
第24回	卒業作品の創作（構想）
第25回	卒業作品の創作（モチーフ）
第26回	卒業作品の創作（構造）
第27回	卒業作品の創作（全体のスケッチ）
第28回	卒業作品の創作（全体のまとめ）
第29回	卒業作品の創作（仕上げ）
第30回	年間の振り返り・まとめ

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけではなく、予習・復習を含めて日常的に取り組むこと

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

適宜資料を配付する

科目名－クラス名

作曲・エレクトロニクス実技④

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数
実技・実習	4～	通年	6

評価方法	定期試験				その他の試験	合計
評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
評価割合	0	0	100	0	0	100

教育到達目標と概要

週1回（60分）の個人レッスン。卒業作品の創作に必要な技量を身に付けることを目標とする。作曲・エレクトロニクス実技①～③で学んだ内容を踏まえて作曲理論の修得や作品分析をベースに作品の創作を学生の学修状況と個性にあわせて指導する。可能な限り作品を演奏する機会を持ち、実践的な作曲技術を修得する。エレクトロニカ系ではコンピュータ音楽・録音制作・音響機器操作の技術を活かした創作を行う。専門的能力として基礎力、技術力、専門知識を得て、学士力として知識・理解を深め、汎用的能力、創造的思考力を養うことを目標とする。

学修成果

創作に必要な理論の理解と技術を用い、幅広い作品の創作ができるようになる。

授業展開と内容

第1回	卒業作品のテーマに基づいて、楽曲分析の導入（芸術音楽作曲系）、コンピュータを使用した音楽について（エレクトロニカ系）
第2回	上記楽曲分析からの作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の導入（エレクトロニカ系）
第3回	卒業作品のテーマに基づいて、楽曲分析の基本（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の基礎（エレクトロニカ系）
第4回	上記楽曲分析からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの分析の応用（エレクトロニカ系）
第5回	卒業作品のテーマに基づいて、楽曲分析の実践（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の基礎（エレクトロニカ系）
第6回	上記楽曲分析からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の応用（エレクトロニカ系）
第7回	卒業作品のテーマに基づいて、楽曲分析の総合演習（芸術音楽作曲系）、サウンドデザインの技法の実践（エレクトロニカ系）
第8回	上記楽曲分析からの作曲技法の総合演習（芸術音楽作曲系）、２～７回までの総括（エレクトロニカ系）
第9回	卒業作品のテーマに基づいて、楽器法の導入（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の導入（エレクトロニカ系）
第10回	上記楽器法からの作曲技法の導入（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の基礎（エレクトロニカ系）
第11回	卒業作品のテーマに基づいて、楽器法の基本（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲の分析の応用（エレクトロニカ系）
第12回	上記楽器法からの作曲技法の基本（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の基礎（エレクトロニカ系）
第13回	卒業作品のテーマに基づいて、楽器法の実践（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の応用（エレクトロニカ系）
第14回	上記楽器法からの作曲技法の実践（芸術音楽作曲系）、DAWを使用した楽曲制作の実践（エレクトロニカ系）
第15回	前期の振り返り・まとめ
第16回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての導入
第17回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての基礎
第18回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽（エレクトロニカ系）の分析についての応用
第19回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての導入
第20回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての応用
第21回	卒業作品のテーマに基づいた楽曲（芸術音楽作曲系）、コンピュータ音楽の楽曲制作（エレクトロニカ系）のについての実践
第22回	１回～６回までの総括
第23回	卒業作品の創作（コンセプトとテーマ）
第24回	卒業作品の創作（構想）
第25回	卒業作品の創作（モチーフ）
第26回	卒業作品の創作（構造）
第27回	卒業作品の創作（全体のスケッチ）
第28回	卒業作品の創作（全体のまとめ）
第29回	卒業作品の創作（仕上げ）
第30回	年間の振り返り・まとめ

履修上の注意

作曲の実習はレッスン内だけではなく、予習・復習を含めて日常的に取り組むこと

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

準備学修として予習・復習は毎週のレッスン時に指示されるので、必ず与えられた課題を実習してから臨むこと。取り組んだ課題のフィードバックは各レッスン回で行う。

教科書・参考書

適宜資料を配付する

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：1328　教員名：由雄　正恒

1）評価結果に対する所見

ミュージックセオリー（初級）：総合満足度は高く、各項目数値も全体平均。聴音ソルフェージュ①：聴音を担当。Q8が幾分低いが、他は平均的な数値。作曲（実技）：総合満足度は非常に高い、Q7が幾分低いが、他は平均的な数値。

2）要望への対応・改善方策

ミュージックセオリー（初級）において、理解のために努力目標を持てることができている。この授業は今後の作曲実技においては学力向上に必要最低限の内容である。聴音・視唱ソルフェージュにおいては、聴音は隔週で行われているが、毎回の授業と授業外学修の成果が表れている。すべての科目において、学生が現在抱えている問題や課題を考慮しながら学習効果が上がる授業およびレッスンの展開をはかっていきたい。

3）今後の課題

授業へのICTの活用を活用し、授業内容の向上と、学生の自発的学習ができるよう課題の選定や実施方法についてさらに研究していく。

以　上